

横浜市立白根小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・思考する学習場面を位置づけると共に、スキルタイムでの基礎的・基本的な知識の習得の場を設定し、自分の考えを深めていこうとする姿勢を育てています。	どの教科においても、一人ひとりが思考する場面を設け、考える力を育む手立てをとった。特に重点研でもある算数においては強く意識できた。スキルタイムについては、どの学年もしっかりと取り組んでいる。	A B C D
2 豊かな 心	・道徳の時間および各教科等の学習を通して、自分のよさを発揮し、他との違いを認め合いながら共に活動できる優しい心を育てています。	自分のよさを発揮し他者との違いを認め合えるようにするためにも、学習形態を工夫し取り組んできた。他者のよさを認めることのむずかしさを感じる実態もあった。	A B C D
3 健やかな 体	・保護者・地域と連携して、食育を推進すると共に、一校一運動の「なわとび・持久走」を通して、健やかな体づくりを目指します。	運動への取り組みは意識でき、進んで練習をする姿もたくさん見られた。食育についても、日々意識して行ってきた。	A B C D
4 学習指導	※共通取組内容で設定のため記載なし	※共通取組内容で設定のため記載なし	
5 地域連携	・食育を切り口に、保護者・地域との連携を深めると共に、「まち懇」 「ホームページ」「授業参観・懇談会」を活用し、中期学校経営方針への理解を深めてもらい、保護者・地域と協働して教育活動を展開しています。	学校側からのアプローチを行い、安全ボランティアなどの取り組みなどに、たくさんの方から協力を得ることができた。中期学校経営方針を含め、全保護者に引き続き理解を深めていただき、協働して教育活動を展開していく。	A B C D
6 特別支援 教育	・特別な支援が必要な子どもについて、個別の教育支援計画や個別の指導計画をたて、全ての教職員が、かわりながらそれぞれの子どもにあった指導が行われています。	特別支援を受けたほうがよい児童や実際に行いたいと考えている児童が増えてきている。実際に支援を受けている児童にとっては、とても有効であった。また、配慮を要する児童については、他機関との連携を進んで行っていく必要がある。	A B C D
7 児童・生徒 指導	・子どもが主体となった挨拶運動が展開され、気持ちのよい学校生活を送ることができるようにします。また、小中ブロックで連携をとりながら児童・生徒指導を取り組んでいます。	共通理解をする場を数多く持ち、共通理解をしたうえで児童指導を行うように心がけてはきたが、まだまだ不十分であった。あいさつについては、後半徐々にあいさつができない児童が増えてきたように感じる。	A B C D
人材育成 組織運営	・若手教諭の育成を軸に、ベテラン・中堅・若手教諭が集う校内研修の実施、校務組織の編成を行い、授業スキル・校務スキル等にかかわる情報交換の場を設け、学校として組織力を高めています。 ・主幹教諭の位置づけを明確にした組織体制を確立し、学校としての意志決定の効率化を図っています。	メンターチームの研修については、計画・運営など自分たちで行いよい研修ができていた。研修の内容についてはじっくり取り組めるようによりしっかりとした計画が必要だと思われる。また、重点研を通し、全教職員の算数科における授業力向上へつながった。学校組織の面では、主幹教諭の位置づけをはっきりし、主幹会をスタートすることができた。	A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・メンターチームの研修(授業研を含む)が位置づけられていて、良いと思う。合同研修の方向を探っていただけるとよい。 ・体力向上1校1運動の短縄跳び、長縄飛び、マラソンが年間通しての活動になっているのは素晴らしい。		
学校関係者 評価結果	・保護者や地域が学校のサポートをすることができるようになり、いろいろな場面で職員や児童と顔が見える関係がもてるようになりよかった。		
評価結果に 対する 学校の見解	・メンターチームの研修については、全教職員で支えていくようにしていく。 ・本校の学校経営方針や教育活動を、学校説明会、懇談会などの機会を捉え、しっかり発信していく。 ・学校便り、ホームページを活用し、より早く発信していく。		
学校経営 中期目標 達成状況	・一人ひとりが思考する場面を授業に位置づけるよう、特に重点研である算数で意識して行うことができた。重点研2年目では互いに高め合えるようにする。 ・特にいろいろな教育活動の中で、他者のよさを認め合う心や態度を育てていく。 ・1校1運動、本校特色の「食育」を引き続き継続していく。		

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・授業のはじめに本時の課題を提示し子どもたちが学習のねらいを意識できるようにします。 ・学習中に思考する場面を位置づけ、一人ひとりの考えを引き出す授業をします。 ・授業のおわりには分かったことをまとめる場を設定し、学ぶ楽しさに気付くようにします。	・子ども達が学習課題を意識できるように授業の初めにねらいを提示し、学習中に一人ひとりが思考する場面を位置づけ、授業のおわりには分かったことをまとめる授業スタイルを定着させ、考える力を育んだ。 ・挨拶運動を励行しながら、誰もが安心して過ごせる環境を整えます。 ・自分のよさを発揮し、友だちと認め合える心情や態度を育てています。	A B C D
2 豊かな 心	・一校一運動のなわとび・持久走のがんばりカードを通して、日常的に健康な体づくりを目指し子育を育てます。 ・食育を推進するためにばくばく便りを活用し、栄養を意識してバランスよく食べる子を育てます。	・意欲的に活動できるよう工夫したカードを使い、なわとび・持久走にすすんで取り組む子が増えた。 ・地場野菜をばくばく便りで紹介することによって、食材に愛着をもって食事することができている。	A B C D
3 健やかな 体	※共通取組内容で設定のため記載なし	※共通取組内容で設定のため記載なし	
4 学習指導	※共通取組内容で設定のため記載なし	※共通取組内容で設定のため記載なし	
5 地域連携	・保護者・地域との連携を深めるために、開かれた学校づくりを目指して、「まち懇」「ホームページ」「授業参観・懇談会」の内容を充実します。 ・学校の情報を積極的に発信し、保護者・地域と協働して教育活動を展開しています。	・学校の情報を「学校だよりやホームページ」で積極的に発信し、保護者・地域と連携して教育活動を展開した。 ・地域とともに歩む学校を目指して「ゆりの木会」を再構築し地域も学校の活動に関心をもたせることができた。	A B C D
6 特別支援 教育	・特別な支援が必要な子どもが認められ、安心して学校生活を送ることができるよう全職員で理解に努め、支援していきます。 ・個別の教育支援計画や個別の指導計画を行います。	・特別な支援が必要な子どもが認められ、安心して学校生活を送ることができるよう全職員で理解を深め、支援に努めた。 ・個別の教育支援計画や個別の指導計画を行います。	A B C D
7 児童・生徒 指導	・子どもが主体となった挨拶運動が展開され、気持ちのよい学校生活を送ることができるようにします。 ・職員間や学校間で情報を共有し、相談機能の強化を図り、課題の早期発見・早期解決に努めています。	・職員間や学校間で情報を共有し、相談機能の強化を図り、課題の早期発見・早期解決に努めています。	A B C D
人材育成 組織運営	・若手教諭の育成を軸に、ベテラン・中堅・若手教諭が集う校内研修を実施します。 ・メンター研にも講師を招き、全職員が関わり研修したことによって、互いに学び合うことができ、授業スキル・校務スキルが向上した。 ・教務部を中心に職員一人ひとりに学校経営の参画の機会を与え、互いの信頼関係のもと組織力を高めています。	・情報交換の場を設け、互いに研鑽し合いながら授業力・組織力を高めた。 ・メンター研にも講師を招き、全職員が関わり研修したことによって、互いに学び合うことができ、授業スキル・校務スキルが向上した。 ・教務部を中心に職員一人ひとりに学校経営の参画の機会を与え、互いの信頼関係のもと組織力を高めています。	A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック 内相互評価 結果	・中期学校教育方針から職員に見やすいように大きく掲示し、短いスパンで気づいたことを付箋に書いて貼っていく見直しを行っている。重点研や年度末反省でも付箋を貼ることで多くの意見を吸い上げることができる。短いスパンで振り返りを行うことで職員の意識が高まり、改善していくので必然的に評価がよくなっていく。		
学校関係者 評価結果	・「昨年度B評価だったところは、なぜ今年度A評価となったのか」というご質問があり、「昨年の経験を活かしベクトルを揃え取り組んだ結果成果が表れた」という説明をした。 ・地域としてはまだ学校と連携をすることができる。来年度も協力・連携していきたい。 ・学校が変わろうとする意識が強い。職員のやる気と活気がある学校評価報告書である。		
評価結果に 対する 学校の見解	・本校の今年度の取組を小中一貫教育推進ブロックやゆりの木会で認めていただいた。 ・次年度に向けて課題を明確にし、職員力・保護者力・地域力を結集してよりよい教育活動を展開していく。		
学校経営 中期目標 達成状況	・落ち着いた学習環境の中で、互いを認め合いながら学ぶ楽しさを味わうことができた。 ・子どもの主体的な取組により、互いに挨拶をする姿が増え、豊かな心を育成した。 ・「ゆりの木会」を再構築し、地域連携を深めて教育活動を展開した。		

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・授業のはじめにめあてを提示し、子どもたちが学習のねらいを意識できるようにします。 ・学習中に思考する場面を位置づけ、一人ひとりの考えを引き出す授業をします。 ・共同思考の場の設定を工夫し、一人ひとりが考えを高められる授業をします。 ・授業の終わりに分かったことをまとめる場を設定し、学ぶ楽しさに気づくことができるようにします。	・課題解決学習の効果を上げるため、はじめに課題を明確にし、自分の考えをもって共同思考をするようにした。自力解決の場では、一人ひとりに応じた支援を進めてきた。そのためクラス全体で学ぶことの楽しさに気づき、学び方も身につけてきた。 ・学力向上プロジェクトでは学習状況調査の分析を行い、学習の基礎基本を身につけることに重点を置いた話し合いをした。学校全体で共通理解したことにより、学習意識の向上につながった。	A B C D
2 豊かな 心	・挨拶運動を励行し、学校内だけでなく地域の人にも挨拶をできる子を育てます。 ・同学年だけでなくたてわり活動などでも自分のよさを発見し、だれとでも力を合わせて活動できるようにします。	・気持ちのよい挨拶をすることができるように、委員会活動を中心に計画を進めてきた。子どもたちの意識を持続することができるようにしていきたい。 ・たてわり活動を、学年ごとのねらいを明確にして、活動に取り組むことができた。	A B C D
3 健やかな 体	・一校一運動のなわとび・持久走のがんばりカードを通して、日常的に健康な体づくりを目指す。また、小中ブロックで連携をとりながら児童・生徒指導を取り組んでいます。	・長縄を運動会の種目に取り入れることにより、めあてに向かって体力づくりをする道すじを作ることができた。 ・生産活動を体験することにより、食べる大切さを実感することができた。	A B C D
4 学習指導	※共通取組内容で設定のため記載なし	※共通取組内容で設定のため記載なし	
5 地域連携	・保護者・地域との連携を深めるために、開かれた学校づくりを目指して、「まち懇」「ホームページ」「授業参観・懇談会」の内容を充実します。 ・学校の情報を積極的に発信し、保護者・地域と協働して教育活動を展開しています。	・学校便りやホームページで、保護者や地域にリアルタイムで子どもたちの活動の様子を伝え信頼関係を高めることができた。 ・テストファイルを活用して面談を行うことにより、保護者に子どもの様子をわかりやすく伝え、学校と家庭が協力して、学習や生活の支援を行うことができた。 ・ゆりの木会を構成する組織が、それぞれ活発に活動し、子どもを支援することができた。	A B C D
6 特別支援 教育	・特別な支援が必要な子どもが認められ、安心して学校生活を送ることができるよう全職員で理解に努め、支援していきます。 ・支援を必要とする児童について、個別の教育支援計画や個別の指導計画をたて、それぞれの子どもにあった指導を行います。	・情報を共有して、計画的な支援を進めることができた。また必要に応じて、支援会議を開き、安心して学校生活を送れる環境作りをした。	A B C D
7 児童・生徒 指導	・職員間や学校間で情報を共有し、相談機能の強化を図り、課題の早期発見・早期解決に努めています。 ・児童支援専任を窓口にして、ブロックでのケース会議を行い、迅速な問題解決に努めます。	・児童支援専任を中心に組織的に対応することにより、落ち着いた学校生活を送ることができた。 ・毎月の職員会議で情報を共有したことで、全職員で児童の対応にあたることになった。また対応したケースを聞くことにより、未然防止や今後の対応に生かすことができるようになった。	A B C D
人材育成 組織運営	・若手教諭の育成を軸に、ベテラン・中堅・若手教諭が集う校内研修を実施します。 ・校務組織の見直しを行い、授業スキル・校務スキル等にかかわる情報交換の場を設け、互いに研鑽し合いながら、授業力・学校経営力の向上を目指していきます。	・テーマにそって学年主任が話し合いを行い、すぐに決定したことを学校全体で取り組んできた。定期的に話し合いを行い実践することで、ミドルリーダーを育成することができた。 ・職員が学校全体に主体的に参加できるように、様々な場で付箋を使って自分の考えを出せるようにしてきた。自分のキャリアステージを意識して、参画することができ、全体のチーム力も向上することができた。	A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・職員全体が中期学校経営方針を自分事にして、主体的に取り組んでいるところがよくわかる。学校のチーム力を高めるために、一人ひとりの考えをだし、実現することによって、達成感が得られているところがよい。		
学校関係者 評価結果	・学校と保護者・地域が意見交換を活発にし、顔が見える関係を築くことができた。子どもたちのために各組織で、できるところを見つけて、活動することができた。 ・地域の方の役割を明確にし、地域と学校のつながりを大切にしていきたい。より学校に地域の人を引き寄せて、次の世代により関係を引き継ぎたい。		
評価結果に 対する 学校の見解	・学校と家庭・地域がより顔が見える関係にすることができた。来年度も学校の情報を積極的に発信し、子どものために様々な場面で連携・協力しながらよりよい学校づくりを目指していきたいと考える。		
学校経営 中期目標 達成状況	本物との出会いや地域や様々な人とのふれあいを中心に、子どもの育成に努めてきた。また学校の課題を共有して学校運営に参加することにより、全体としてのチーム力を高めることができた。		